

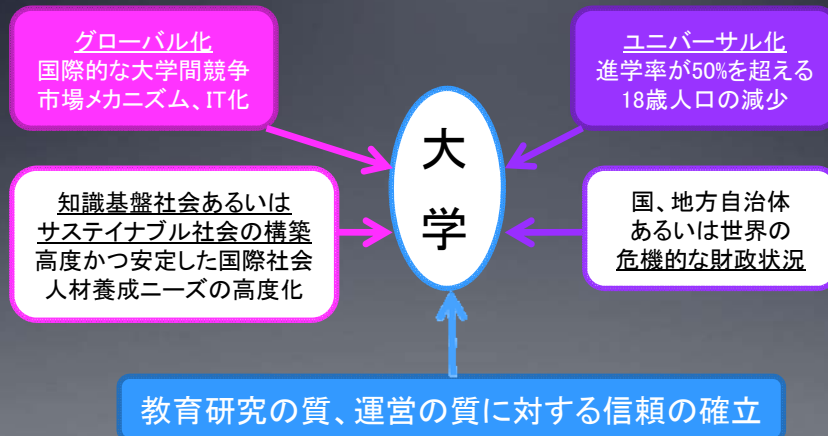
評価と戦略形成のための データベースの必要性

大学評価・学位授与機構
川口 昭彦

戦略形成と評価に必要な データベース

- わが国の大学をとりまく環境
- 「個性輝く」ための戦略形成と説明責任
- アウトカムの評価と説明責任

わが国の大学をとりまく環境



3

大学教育の変化と競争激化

- 大学の設置が進み、その結果として大学間の競争が激化している。
- 大学が選ばれる時代に突入している。
- アメリカのトップ大学の入学率(入学者/合格者)は最高でも70%にとどまっている。
- この競争は国境を超えて激化している。
- 大学には一層の説明責任(とくに、アウトカムに関する)が求められる。

4

アウトカムとは？

	具体的内容
インプット (投入、入力)	教育研究活動等を実施するために投入された財政的、人的、物的資源をさす。
アクション (活動、行動)	教育研究活動等を実施するためのプロセスをさす。計画に基づいてインプットを動員して特定のアウトプットを産み出すために行われる行動や作業をさす。
アウトプット (結果、出力)	インプットおよびアクションによって、大学(組織内)で産み出される結果をさす。
アウトカム (成果、効果)	諸活動の対象者に対する効果や影響も含めた結果をさす。学生が実際に達成した内容、最終的に身につけたもの、刊行された論文の効果や影響などである。

5

大学のジレンマとブレイクスルー

- 大学教育パフォーマンスを表わす指標の一つとしての所定年限内の卒業率(あるいは在籍率)
- これと卒業者の質(教育達成レベル)を両立させることは簡単ではない。
- 卒業率と教育達成レベルを同時に高く保つか、これが大学教育のアウトカムであり、大学の知恵の絞り所である。

6

大学の変化と課題

- 環境の変化を、各大学の構成員、政府を含む関係者、社会がどれだけ意識して、改革に取り組もうとしているか？
- 自律的運営に向けた大学本部と教育研究の現場における意識の乖離。危機感や緊張感が必ずしも共有されていない。
- 教員全体の意識の底上げ、職員組織の変革と業務革新。

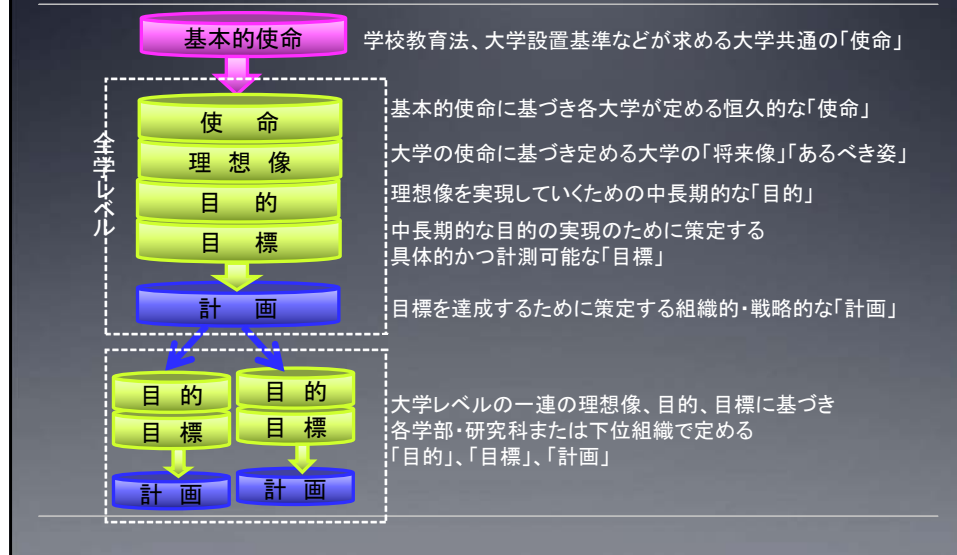
7

課題解決のためには

- 各大学が自らの使命、将来像、目的などを明確に描いて、社会に明示する。
- これらを構成員全員が共有するためには、これまで以上に情報の共有化と意思疎通が不可欠。
- 諸活動のアウトカムを、社会に向かって発信するとともに、絶えず評価を通じて改善・向上に努める。
- 評価には、公平性と透明性が求められる。
- この作業の基礎としてデータベースが必要。

8

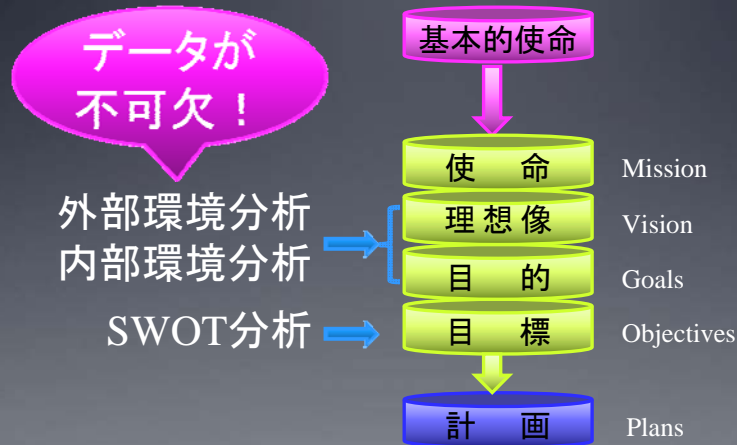
使命・理想像・目的・目標・計画



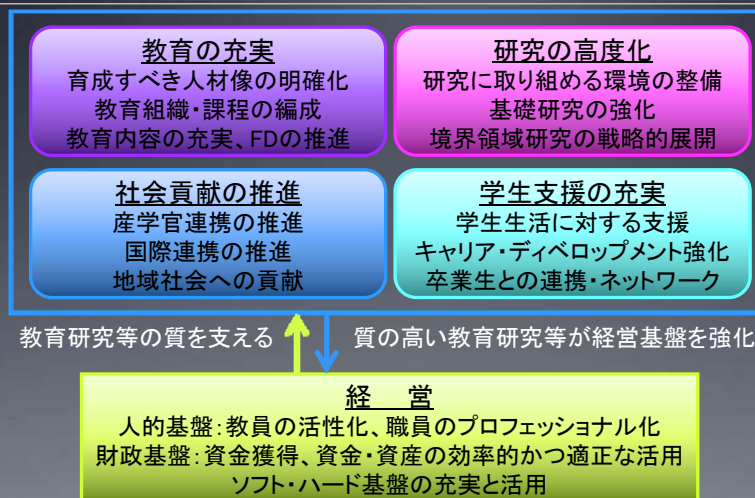
目的・目標の明確化には・・・

- 大学自身のリソースを的確に把握する。
- 大学の「個性化を促進する」ためには、自らのリソースを把握した上で、目的や目標が設定されなければならない。
- 大学名を観なくても、その目的・目標を観れば大学名が推測できるようになることが理想であろう。

大学がもつリソースの把握



教育研究等と経営の関係

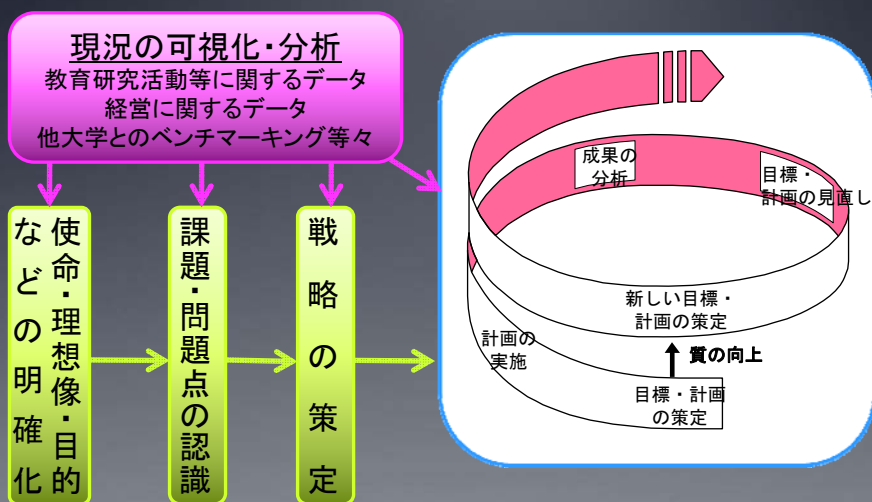


データベース活用の視点

- 戦略(目標・計画)策定 ⇒ それらのアウトカムをどのように示すか? ⇒ **指標**
- 今回の国立大学の教育研究評価で各大学および評価担当者に提供した集計データ(全大学平均値)、今後提供予定の集計データ ⇒ **公表**
- 自らの状況(ポジション)を把握、参考となる大学の分析 ⇒ 他大学の**ベンチマーク**

13

データベースと改革・質向上



14